

国労九州本部拡大委員会

2月6日(月)の13:00より、九州労働金庫長崎支店にて、九州本部拡大委員会が開催されました。この日、西九州新幹線に初めて乗ったという方も多かったようです。博多地区本部からは、岩田佳史(博多運転区)、香田賢晋(博多車掌区)、久本和彦(唐津乗務センター)、諸永貴司(博多運転区)、穴井憲寿(久留米運輸センター)、佐藤康徳(久留米運輸センター)、井上喜代彦(南福岡運転区)の7名が参加しました。前段の労働講座では、国労中央本部の宮崎総務財政部長による講演「JR東日本会社における効率化の特徴と労働組合の役割」が行われました。本委員会は、九州本部の古賀副委員長の挨拶に始まり、議長には、博多地区本部の岩田執行委員が選出されました(写真上)。その後、松川中央本部委員長による問題提起を経て、当面の闘争方針について、博多地区本部からは、久本代議員と香田代議員に「会社の問題点」「職場運動の取組み」「組織の在り方」等について、それぞれの意見を述べて頂きました。最後は、毎回恒例、千々岩委員長の掛け声による「団結ガンバロウ」のもと、閉会しました。参加された皆さま、お疲れ様でした。



久本和彦 代議員
(唐津乗務センター)

職場では、退職や病気等で乗務員が不足し、特休を超過扱いで乗務するということが行われている。特休は、8時間以上乗務できないため泊まり勤務を2つに分割して乗務させている。ある人は、1月の超過が35000円ついたという方もいる。年休は相変わらずとれず、一人とれるか二人とれるかが続いており、年休を流す可能性の高い方が多数いる状態である。春闘について、コロナの影響にかこつけてJR九州がベースアップするとは思えないが、物価はどんどん上がっているのに、給料は低賃金のままで生活も困窮しているというのが実情である。特に嘱託社員は、低賃金で仕事の中身は、何らかわらず。年金も貰っていないのに生活できるわけがない。現在では、貯金を取り崩して生活せざるを得ない。嘱託社員の給料等をもっと優遇すれば、我々もやる気が出て会社も躍進するはずなのに、このままではJR九州という船は、沈没するのが目にみえている。